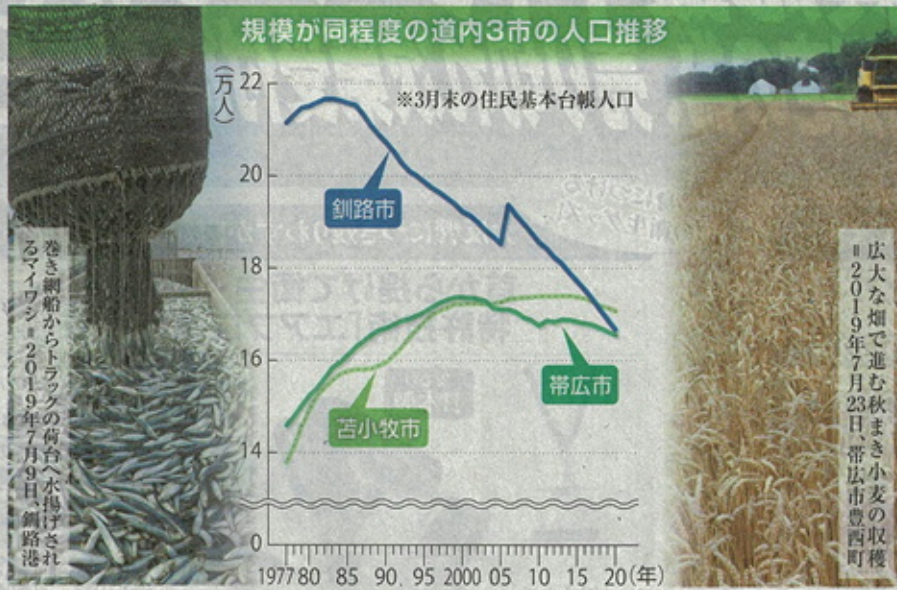




水産業不振、企業の拠点移出

釧路の人口激減 帯広逆転迫る



【釧路、帯広】道東を代表する2都市、釧路市と帯広市の人口が、2020年度中にも逆転する見通しだ。住民基本台帳（4月末現在）では、道内5位の釧路市が前年同月比1・4%減の16万6764人、6位の帯広市が同0・4%減の16万5615人。40年前には6万人以上だった差が1149人に縮まった。どちらも減少傾向にあるが、釧路市の減り方が激しいため帯広市が迫っている。背景には、水産業や農業といったそれぞれの基幹産業を巡る環境の違いがある。

（釧路報道部 相川康晴、帯広報道部 幸坂浩）

今年3月、JTB北海道事業、道東方面の業務は帯広営業部の釧路オフィスが閉鎖され、オフィスに集約された。ほかに

十勝農業好調、道東の拠点に



④37年間の歴史に幕を下ろしたイトヨーカドー釧路店=2019年1月20日 ⑤帯広市中心部で建設中のマンションや複合ビル=4月28日

北見までカバー

東京商工リサーチ北海道支社の立花克則情報部長は「帯広には農業という基盤があり、札幌から日帰り圏という地の利も大きい。道東の人口が減る中で拠点をどこに置かを考えた時、釧路も北見もカバーできる帯広は有力な選択肢になる」と説明する。

釧路、帯広の両市とも、東京や札幌への転出が多いのは共通の悩みだが、釧路市は近年、十勝への人口流出が目立つ。18年までの5年間をみると、十勝に対する転出超過は毎年56～159人で推移し、500人弱が移った形だ。

帯広市の人口は01年1月の17万5174人をピークに減少している。ただこの数年は年間約700人減と、2千人

も三菱電機道東営業所など、この10年ほど企業が拠点を釧路市から帯広市へ移すケースが目立つ。

減ベースの釧路市に比べ緩やかだ。十勝管内の農業は大規模化や高付加価値化の取り組みが奏功し、19年の農業産出額は3549億円と、この10年で5割増加した。農業が経済を支え、地域の中心である帯広市にヒト・モノ・カネが集まる好循環が生まれている。

19年4月～20年3月の月別有効求人倍率は、帯広公共職業安定所管内が1・05～1・32倍で推移。釧路の1・32倍は過去最高だったが、帯広には及ばない状況だ。

釧路市は戦後、水産業や石炭採掘などで発展し、1970年代にかけて人口が急増した。だが77年の2003年漁業専管水域の設定で状況は一変。84年1月の21万8145人をピークに減少に転じ、2002年の太平洋炭鉱閉山が追い打ちをかけた。05年の釧



路管内旧阿寒町、旧音別町との合併で一時的に人口は増えたが、18年1月には苫小牧市に抜かれ5位となった。

釧路市では06年に百貨店の丸井今井釧路店、19年1月にイトヨーカドー釧路店が閉店した。一方帯広市では、道東唯一となった百貨店藤丸が売り上げ減に直面しながらも営業を続ける。市中心部では約20年間空き店舗だった商業ビルなどを複合施設に再開発。隣接地では地上19階建て分譲マンションの建設も進む。

中小支援に活路

釧路市は40年に人口が最も少ない場合で10万6千人になると推計。20年度からの総合戦略では13万8千人維持を目標に定めた。中小企業を支えるビジネスサポートセンターを開設するなどしており、蝦名大也市長は「多くの中小企業を支えることで雇用創出につなげ、人口減を食い止めた」と話す。

帯広市の米沢則寿市長も食と農業を軸とする産業振興策をさらに進め、人口流出を抑える考え。国立社会保険・人口問題研究所が18年にまとめた将来推計によると、同市の人口は45年に14万9700人まで減るが、苫小牧市も減っていくため4位に浮上する見通し。米沢市長は「道内有数の地域として存在感を高めていきたい」と話している。

路管内旧阿寒町、旧音別町との合併で一時的に人口は増えたが、18年1月には苫小牧市に抜かれ5位となった。

釧路市では06年に百貨店の丸井今井釧路店、19年1月にイトヨーカドー釧路店が閉店した。一方帯広市では、道東唯一となった百貨店藤丸が売り上げ減に直面しながらも営業を続ける。市中心部では約20年間空き店舗だった商業ビルなどを複合施設に再開発。隣接地では地上19階建て分譲マンションの建設も進む。

小樽、室蘭は札幌へ流出 人口上位10年で激変

2010年と20年の道内の市の人口上位を見ると、順位は大きく変動した。4位だった釧路市は5位になり、小樽市は7位から9位に、室蘭市は10位から11位に下がった。小樽、室蘭の両市はともに札幌圏への流出や少子高齢化の影響で、人口が大きく減った。

小樽市の人口のピークは1964年の20万7千人。この10年で2万人以上減った。高齢化率が40%を超えており、死亡数が出生数を上回る「自然減」の増加が大きな要因だ。市外への転出者の5割近くが札幌に流れている。

室蘭市は70年の16万2千人がピークで、この10年で約1万4千人減少した。

特に20、30代の転出が目立つ。同市によると、札幌などへの就職のほか、子育て世代が手頃な家賃の住宅を求めて登別市など近隣自治体に流出する傾向がみられるという。

一方、苫小牧市は5位から4位に、江別市は9位から7位に、千歳市は11位から10位に浮上。いずれも札幌市や新千歳空港へのアクセスの良さなどから、産業・物流の拠点として存在感を高めている。人口問題に詳しい札幌市立大の原俊彦名誉教授は「札幌まで通勤圏内の自治体の住宅需要は底堅く、想像以上に札幌への一極集中が進んでいる」と指摘。新型コロナウイルスの感染拡大を受け「観光を

道内人口上位市の順位と人口の変化

2010年		20年	
①札幌市	1,895,204	①札幌市	1,962,374
②旭川市	353,495	②旭川市	332,665
③函館市	282,894	③函館市	253,716
④釧路市	185,654	④苫小牧市	170,686
⑤苫小牧市	173,993	⑤釧路市	166,764
⑥帯広市	168,375	⑥帯広市	165,615
⑦小樽市	133,866	⑦江別市	119,776
⑧北見市	125,642	⑧北見市	115,868
⑨江別市	122,162	⑨小樽市	113,720
⑩室蘭市	96,296	⑩千歳市	97,817
⑪千歳市	93,613	⑪室蘭市	82,274

※単位は人。各年4月末。部は5月1日

売りにしている小樽や釧路などはさらに人口流出が進む懸念がある」と話す。
(帯広報道部 広田まさの)